

Kyoto Prefecture Hospital Association News

第20号
2021年7月

京都府病院協会ニュース

《発行所》一般社団法人 京都府病院協会 《発行人》辰巳哲也 〒604-8585 京都市中京区西ノ京東桐尾町6 京都府医師会館内
TEL 075-354-6072 FAX 075-354-6074 <http://www.fubyokyo.kyoto.med.or.jp/>

会長就任のご挨拶

会長 辰巳哲也



このたび京都府病院協会会長を拝命いたしました、京都中部総合医療センターの辰巳哲也です。長い歴史を持つ京都府病院協会ですが、昨年引き続き会長をお引き受けすることとなり身が引き締まる思いです。新執行部ですが、副会長は京都第二赤十字病院長の小林裕先生と京都桂病院長の若園吉裕先生にお願いし、会計担当理事は京都バプテスト病院長の尼川龍一先生にお引き受け頂きました。また長年にわたり事務局としてお世話頂いた杉岡真氏に代わり、2021年7月より京都府医師会の平井厚氏と山口早余氏が事務局をご担当頂くことになりましたので、引き続きどうか宜しくお願い申し上げます。

新型コロナウイルス感染症は世界的に猛威を振るい、約1年以上が経過する中で感染者の拡大と多くの人命が失われました。これまでの人類の歴史上、ペストやスペイン風邪など世界的なパンデミックは幾度となく繰り返されてきましたが、今回の新型コロナウイルス感染症は未だ特効薬がないうえに、高齢者・基礎疾患保有者における致死率が高く、20世紀以降に経験するSARSやMERSとは違う歴史に残る感染症であると感じています。2021年3月末から始まった第4波での新規感染者数もようやく減少に転じましたが、東京では感染者数の下げ止まりからのリバウンドが生じて、7月12日から4度目の緊急事態宣言が発令され、「緊急事態宣言下でのオリンピック開催」という緊迫した事態となりました。高齢者へのワクチン接種は進んでいますが、今後株などの変異ウイルスの出現によりワクチン未接種の中老年・若年層への感染拡大・重症化が懸念され、さらなるワクチン接種の推進と第5波への準備を怠らないことが必要です。

新型コロナウイルス感染症の拡大は我が国の平時の医療提供体制や病院医療における課題を浮き彫りにしました。医療法が改正され、従来の5疾病5事業に加え、新興感染症という新たな項目が第8次医療計画に追加されようとしています。地域医療構想においては、中長期的需要に見合った効率性・経済性を高める視点だけではなく、新興感染症に対する対策を加えた議論が展開されていくと思います。一方、医師の偏在対策が一向に進まず、専門医シリング制度による医師の定数が抑制される中で、2024年に迫った医師の働き方改革への対応も行わなければなりません。京都府においても医師の働き方改革検討部会(準備会)が始まり時計の針が動き出しています。地域医療構想がWith/Afterコロナ時代に対応できる中身のあるものになっていくよう、また医師の働き方改革も個々の地域でコロナと戦う医療現場を顧みて、医療の提供体制に支障をきたさない形で進むことが絶対に必要です。

京都府病院協会は2021年度の新規事業に新興感染症対策整備事業としての人工呼吸・ECMO研修と働き方改革対応に向けた特定看護師研修支援事業を計画しています。また昨年は実施できなかった病院長研修や新興感染症に対応した地域医療構想の考え方研修会、医師の働き方改革についての検討会も企画していきます。いずれも内容の濃い魅力ある企画にしますので、どうかご参加賜りますようお願いいたします。

前年度からの重要な継続事業として病院協会では会員病院へ「コロナ禍における病院経営アンケート調査」を実施してきました。9月までの上半期集計が既に終了して皆様にお送りしていますが、その結果からは多数の病院が外来患者や入院患者が減少し、医療収益が大幅に減少し、十分に回復していません。政府も医療機関への財政支援を行ってききましたが、すべての病院が経営破綻に追い込まれないような配慮と継続した医療提供体制への助成を強く求めていきます。現在は2020年度の年間アンケート調査の集計を行っています。締めくくりの重要な年間調査であり、高回収率を目指しており、会員病院皆様のご協力を何卒宜しくお願い申し上げます。

京都府病院協会は北部から南部に及ぶ京都府全域における医療圏の病院が所属されています。設立母体も様々で各病院が抱える課題はそれぞれ違いもありますが、新型コロナウイルス感染症対応も含めて、京都府における医療の提供体制を支える重要な病院ばかりです。医療情報を迅速に共有して皆様と議論を行い、行政ならびに医療関係団体に協会としての意見を強く発信できるよう頑張りたいと思います。Afterコロナの時代へ向けて、新たな創造力を持って、非常時にも対応できる2040年を見据えた医療の提供体制を目指して、皆様とともに進んでいきたいと存じます。会長として職務に邁進して参りますので、今後とも皆様の温かいご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

副会長就任のご挨拶



副会長
小林 裕

京都府病院協会役員の任期は2年ですが、昨年度は任期途中で副会長を拝命したため、今年度も引き続き副会長を務めさせていただくことになりました。京都第二赤十字病院の小林裕です。よろしくお願いたします。

昨年度は新型コロナウイルス感染症により、医療はもとより社会そのものの在り様が変わりました。2021年4～6月の第4波では、行政や各医療機関の頑張りで何とか乗り越えられましたが、医療崩壊寸前にまで至りましたが、今後、感染力がさらに強い変異ウイルスの蔓延が危惧されます。この原稿を記している2021年7月初旬時点では京都の新規新型コロナウイルス感染者数は落ち着いてきているものの、下げ止まり、上昇傾向?であり、ワクチン供給が突然制限され、現場は大混乱しています。可能な限り早急に高齢

者だけでなく比較的若年層までへのワクチン接種が広まることで、重症者が減少することを期待したいものです。1年余りの短期間でワクチンが開発されましたが、これがなければ、第5波での医療崩壊は必達であり、大変な社会状況になっていたと思われます。手洗い、マスク、密回避などのわれわれの感染予防行動で、なんとか第5波到来を先延ばしさせ、ワクチン接種の時間を稼ぎたいものです。

また従前より、「地域医療構想」「医師・医療従事者の働き方改革」「医師偏在」の医療の三位一体改革が提唱されており、引き続きその対応の検討も進める必要があります。地域医療構想はこの新型コロナウイルス感染症にて、医療の脆弱部が曝け出され、今後見直しが必要と思われます。一方、働き方改革は、2024年度から予定通りの施行に向けて、当会員の病院も怠りなく、準備を進めなければなりません。



副会長
若園 吉裕

このたび引き続き京都府病院協会副会長に就任することになりました。京都桂病院の若園です。どうぞよろしくお願いたします。

振り返りますと昨年からCOVID-19に翻弄された1年半でした。7月1日現在においてCOVID-19は世界で感染累積者数17,969万人、死亡者数390万人、特にアメリカ・イギリスなどの先進国では死亡者数が日本とは比較にならないほど多く、2020年度の全体年間死亡者数も予測死亡者数を大幅に超えました。アメリカでは約30万人の超過死亡を確認し、イギリスでは第二次世界大戦後最悪の超過死亡を認めたとされ、変異株が大きく報じられています。一方日本国内においてはCOVID-19による死亡者数は7月1日現在14,664人で超過死亡はなく逆

に例年より年間死亡者数の減少がみられています。これは国民の多くがマスク・手洗いなど標準予防策をしっかり遵守・対応し感染症に関連した死亡者数が減少したためと考えられます。ワクチン接種が順調に進み感染対策も継続しCOVID-19が収束してゆくことを心より期待しております。

COVID-19対応で日本の医療体制の問題点もいくつか指摘されており、行政のリーダーシップの在り方と危機対応の不慣れと医療の余裕のなさの影響しているように思います。今年はワクチンでコロナ禍が終息に向かい、本格的に働き方改革や専門医制度に対応し感染症を含め地域医療構想の中で今後の医療提供体制を真剣に議論してゆく1年になってゆくことを願っております。実際の各病院のデータを基に会員の皆様からご指導を賜り、京都の病院医療が少しでも良い方向へ向かうように辰巳会長を支え、微力ながら努力をして参りたいと思っております。また本年度はまだ難しいかもしれませんが種々の研修企画も会長とも相談させていただき模索したいと思っております。何卒どうぞよろしくお願いたします。

一般社団法人 京都府病院協会 理事・監事
任期：令和3年6月定時総会～令和5年6月定時総会

- 会長 辰巳 哲也 (京都市立総合医療センター)
- 副会長 小林 裕 (京都第二赤十字病院)
- 副会長 若園 吉裕 (京都桂病院)
- 理事 尼川 龍一 (日本バプテスト病院)
- 理事 池田 栄人 (京都第一赤十字病院)
- 理事 岩本 一秀 (京都市立総合医療センター)
- 理事 小野 晋司 (三菱京都病院)
- 理事 梶龍 兒 (国立病院機構宇多野病院)
- 理事 黒田 啓史 (京都市立病院)
- 理事 小池 薫 (国立病院機構京都医療センター)
- 理事 島崎 千尋 (京都鞍馬口医療センター)
- 理事 坪井 知正 (国立病院機構南京都病院)
- 理事 吉岡 隆一 (府立洛南病院)
- 理事 吉田 憲正 (済生会京都府病院)
- 監事 香川 惠造 (市立福知山市市民病院)
- 監事 森本 泰介 (京都市立病院)

令和3年度 定時総会を開催

2期目となる 辰巳執行部が発足

令和3年度の定時総会を、6月1日(火)京都府医師会館にて開催、当日は会員病院より28名が参加しました。今回の総会では令和3年度の事業計画・予算を報告するとともに、令和2年度の事業報告・決算、令和3年度通常会費ならびに新役員の選任について議案を上程し、いずれの議案も賛成多数で可決承認されました。

◆新任理事2名を迎えて 辰巳執行部がスタート

第4号議案では、理事、監事、顧問の選任に関して議案を上程し、議長より主旨説明を行いました。今回は、任期満了に伴う役員改選であり、新たに山城南医療圏からの役員1名を増員した理事14名、監事2名ならびに7名の顧問

の選任に関し承認を求め、賛成多数で承認されました。

なお、総会終了後、理事会を開催し、代表理事(会長)、副会長、会計担当理事を選任。会長には、引き続き辰巳哲也先生(京都中部総合医療センター)が就任し、2期目となる辰巳執行部が発足しました。副会長には小林裕先生(京都第二赤十字病院)、若園吉裕先

生(京都桂病院)が引き続き就任、会計担当理事には尼川龍一先生(日本バプテスト病院)を選出しました。新理事として選任されたのは、左記の2名の先生方です。任期は令和3年6月1日から令和5年6月定時総会まで。

岩本 一 秀先生
(京都山城総合医療センター)

吉岡 隆 一先生
(府立洛南病院)

なお、元会長の香川恵造先生、森本泰介先生には引き続き、監事

として新執行部を支えていただきます。

◆令和3年度通常会費を承認

総会では令和3年度の通常会費についても審議され、「1病院60,000円(昨年と同額)」とすることを提案し、賛成多数で承認されました。また、令和2年度の事業報告・決算についても議長より主旨説明し、香川恵造監事による会計監査が行われた後、採決に入り、賛成多数で承認されました。当日、採択された議案は左記のとおり。

令和3年度定時総会 議案

第1号議案

令和2年度一般社団法人京都府病院協会事業報告に関し承認を求める件

第2号議案

令和2年度一般社団法人京都府病院協会決算に関し承認を求める件

第3号議案

令和3年度一般社団法人京都府病院協会通常会費の徴収に関し承認を求める件

第4号議案

一般社団法人京都府病院協会理事および監事の選任に関し承認を求める件

第5号議案

一般社団法人京都府病院協会顧問の委嘱に関して承認を求める件

令和3年度 通常会費について

令和3年度の通常会費については、去る6月1日(火)に開催されました「令和3年度定時総会」におきまして、以下のとおり承認されましたので、お知らせいたします。

令和3年度 通常会費
60,000円



夏季研修会2021を開催

大曲貴夫先生を招聘

夏季研修会2021を7月2日(金)、ホテルグランヴィア京都にて開催しました。新型コロナウイルス感染症の影響で、会員の研鑽や討論の場が大幅に減少している中で、今回、大曲貴夫先生(国立研究開発法人国立国際医療研究センター 国際感染症センター長)を講師としてお迎えすることができ、最前線での新型コロナウイルス感染症の治療・研究にあたる経験から得られたCOVID-19の最新の知見や今後の課題についてオンラインでご講演いただきました。

染症とワクチン接種の現況」と題して、府内の感染者に関するデータやワクチン接種体制に関する状況が示されました。

会場には25名、オンラインでは95名が参加し、会員の熱心な質疑に大曲先生もひとつひとつ丁寧にご回答いただき、有意義な研修会となりました。

また、当日は京都府健康福祉部 ワクチン接種対策室から、「京都府における新型コロナウイルス感



第56回

京都病院学会のご案内

本年で56回目となる京都病院学会は、WEB形式を中心として10月24日(日)より開催されます。今回の学会は京都府病院協会が担当となり、池田栄人先生(府病協:理事)が学会長を、尾川龍一先生(府病協:理事)が実行委員長を務めます。多数のご参加をお待ちしております。

開催期間
令和3年10月24日(日)~11月28日(日)

基調講演
「WITHコロナ、愛と誠と夢のある病院づくり」
池田栄人 学会長(京都第一赤十字病院院長)

特別講演
「COVID-19との対峙 ~最新の情報から学ぶ~」
館田一博 氏(日本感染症学会理事長・東邦大学医学部教授)

京都病院学会事務局 連絡先
〒600-8411
京都市下京区烏丸通四条下条水銀屋町620番地
COCON烏丸8階(京都私立病院協会内)
TEL:075-354-8838 FAX:075-354-8802
MAIL:gakkai@khosp.or.jp

令和3年度事業計画 (基本方針)

新型コロナウイルスの感染拡大から早1年が経過しました。昨年より本会が実施しているアンケート調査では、公立・私立を問わず、多数の病院が地域医療を守るため日々尽力している現状が窺えられました。昨年3月の感染拡大の第1波から第4波の今日に至るまで、医療現場の最前線でご尽力いただきました会員病院の先生方、看護師等スタッフの皆様に対しまして心から敬意と感謝の意を表したいと思います。

とりわけ今年3月末より始まった第4波は大阪、兵庫、京都などの関西圏や首都圏を中心に甚大な感染拡大を招いています。第4波では変異ウイルスの影響により若年層を含めた重症化例が多くみられ、医療の提供体制が従来に比してさらにひっ迫しました。緊急事態宣言が出される中、現在、新規感染者数は減少に転じておりましたが、重症病床利用率、10万人あたりの療養者数など医療提供体制は未だ厳しい状況が続いています。たとえ厳重警戒を脱しても感染者数のリバンドや新たな変異ウイルスの出現に注意し、引き続き感染拡大への注意を怠らないことが必要かと考えます。

今回の新型コロナウイルスの感染拡大は経済界のみならず医療界にも厳しい影響をもたらし、受診抑制による経営危機や院内感染発症による病院機能の低下、長引く感染対応による医療従事者の疲弊などを招きました。すでにワクチン

の供給がスタートし、医療従事者や高齢者への接種も開始されています。しかしながら、今後の感染拡大の規模や終息時期は未だ不透明で、ワクチンの供給状況や地域住民への迅速なワクチン接種体制の確保など課題は山積しています。

このようなコロナ禍に直面し、まさに「疾風に勁草を知る」という言葉が、我々医療界に試されているのではないかと思います。一刻も早い第4波の収束とこれから到来するかもしれない「第5波」に備えて、これまでの教訓と反省を踏まえつつ、行政と医療関係団体が一致団結して感染対策に取り組んでいかなければなりません。

本会では、今年度の新規事業として、コロナ対策の一環での「ECMO研修会」を京都府や大学、基幹病院と共同で企画し、実施します。是非、多くの方々にご参加いただきますようお願い申し上げます。また会員病院へのアンケート調査も引き続き行っていく予定ですので、皆様のご協力をどうか宜しくお願い申し上げます。

さて、少子高齢時代へ対応するため国はこれまでに地域医療構想を策定し、医師の働き方改革を推進しようとしてきましたが、コロナ禍を経験し医療の提供体制のあり方は従来求められてきた効率性のみを追求したものではありません。一方、今後の人口減少とともにコロナ以外の感染症の減少、入院・外来受療率の減少など、急性期を中心に病院を取り巻く医療ニーズの変化も予想されており、地域ごとに中身のある地域医療

構想調整会議が開かれ、地域のニーズにあった医療提供体制が構築されるとともに、コロナと戦う医療現場を顧みたる柔軟性のある働き方改革が進むことを願います。

人と人がリアルタイムに関わることで生産性を上げてきた時代は、このコロナ禍でその必要性自体が問われる時代になりました。医療業務においてはインターネット情報基盤を構築して、デジタルトランスフォーメーションを進めていく必要があると思います。今後、ICTを駆使した社会生活が定着し、医療へ飛躍的に応用されていく未来を想定した対応が必要であり、業務効率・医療の質・患者サービスの向上につながっていくことに期待も感じています。煩わしい雑事はAIへ、人間らしい創造性を生み出す社会の到来を予感しつつ、With/Afterコロナ時代に訪れるニューノーマルをしっかりと見極めながら病院の舵取りをしていくべきかと考えています。コロナ禍で芽吹いたICT技術がさらに社会を豊かにしていくような1年であって欲しいと願いつつ、会員病院の先生方からなるご協力を賜りますようお願い申し上げます。

今後ますます複雑化していく医療環境の中で、地域の医療提供体制が混乱しないためには、医療団体の個別行動などの拙速な対応は絶対に回避しなければなりません。京都府病院協会は、京都府医師会や京都私立病院協会などの医療団体と一致団結して直面する課題解決に当たり、今後も京都府の安定した医療提供体制構築に努めて参ります。